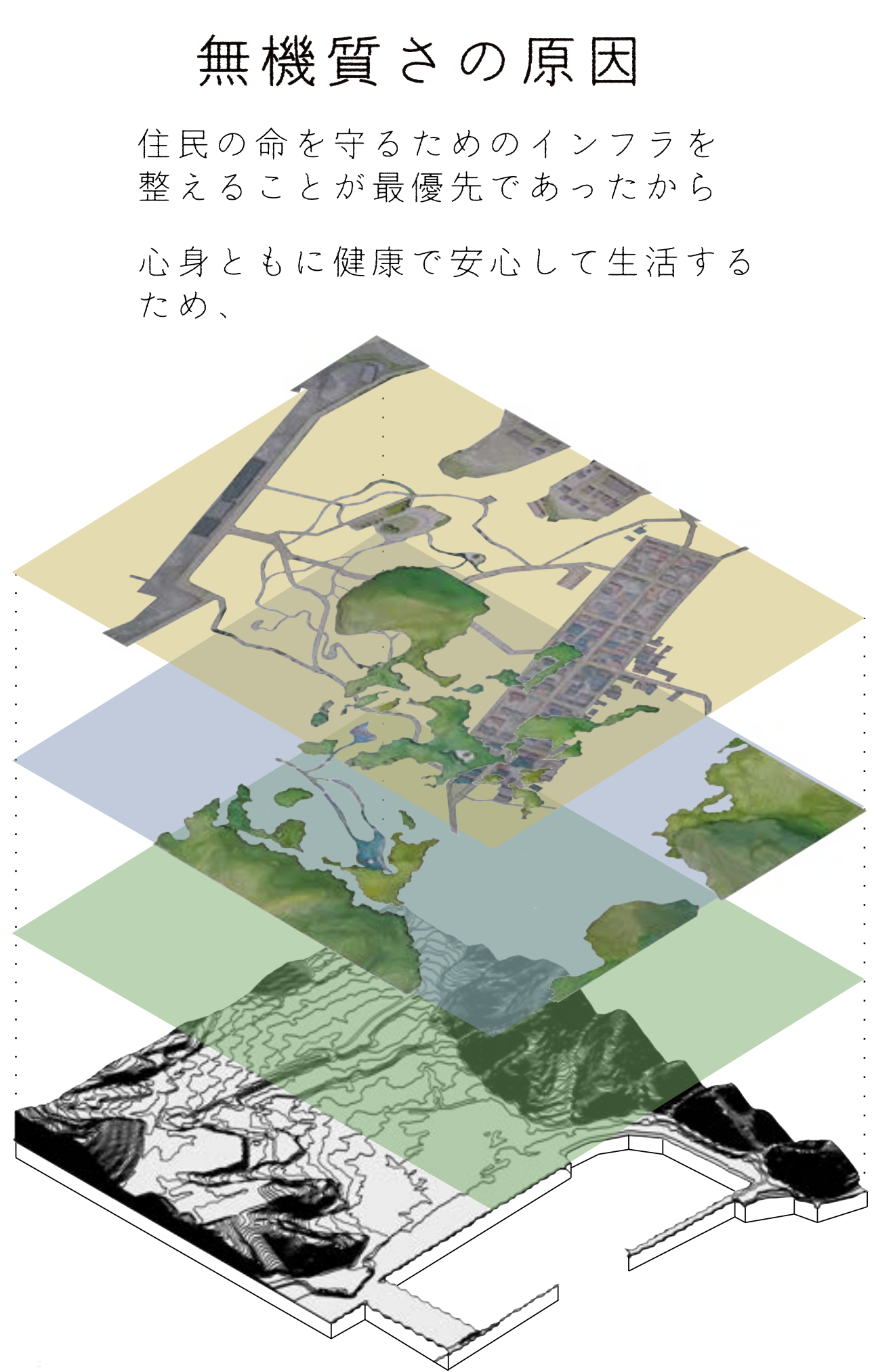




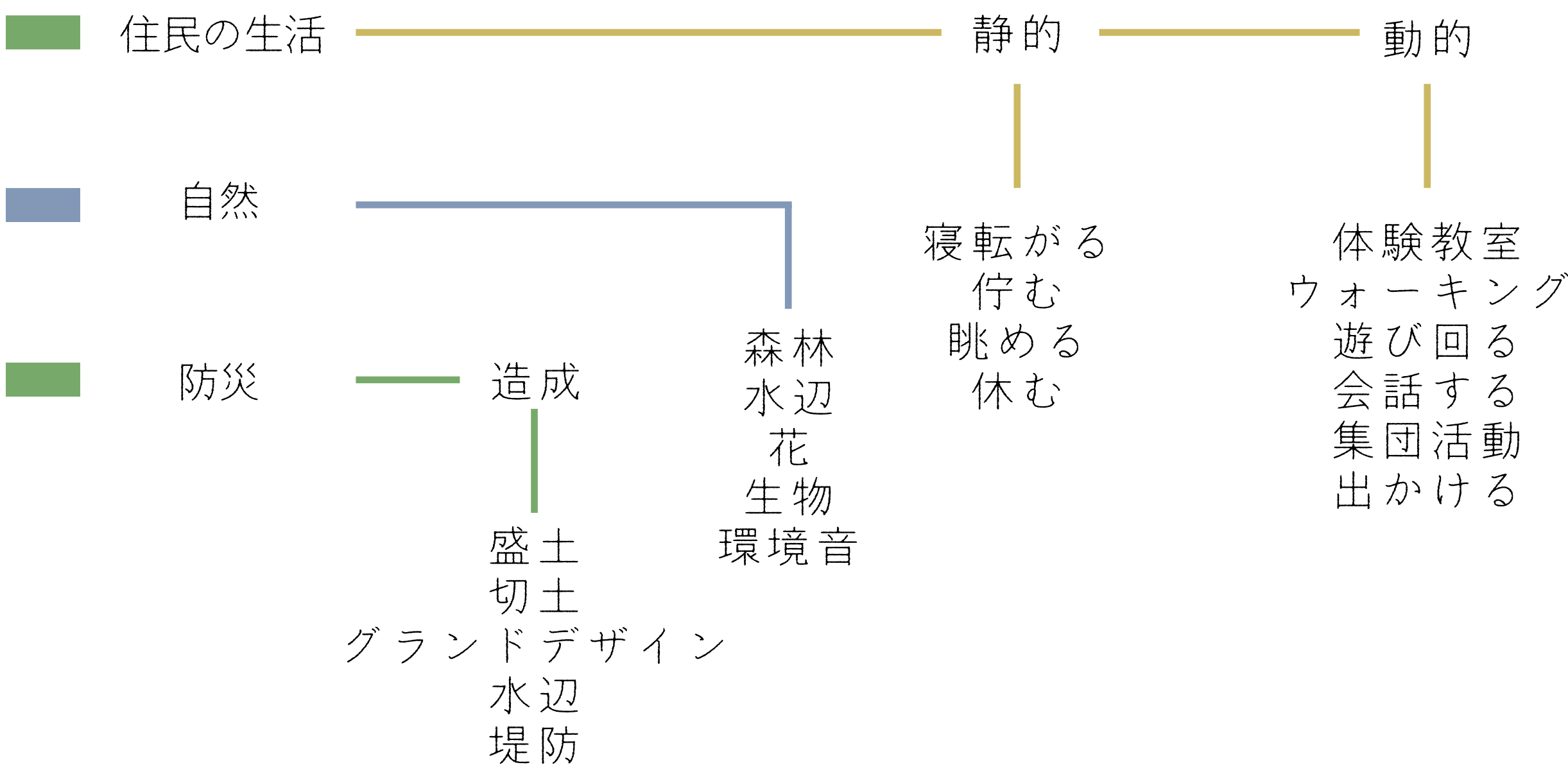
対象敷地

岩手県下閉伊山田町船越第13
～14地割



元通りにならなくても

海と人が密接に関わり合う賑やかで
穏やかな雰囲気が戻ってきて欲しい



海と人

山田町は岩手県沿岸南部に位置する海沿いを中心に形成された町である。親潮と黒潮がぶつかり多種多様な生命が集まる好漁場であること、リアス海岸があることなど漁業に限らず様々な場面で海との繋がりが強い町である。特に潮の動きが穏やかな入江で養殖される牡蠣は日本でも有数の生産量となっている。年に1回、4月下旬にはその豊富な牡蠣を中心とした海産物を用いた試食会や直売を屋外で行う三陸山田カキ祭りが開催されるなど山田町以外の外部の人々との交流を行うきっかけのひとつとなっている。

人と人

対象地のある岩手県山田町は私の祖父母が長年暮らしている町だ。私が物心つく前から度々泊まりにいく習慣が身につけており、毎回楽しみにしていた。その記憶の中では周囲の人々との関わりが色濃く残っている。毎日雑談がてら魚や野菜のお裾分けに訪れる人、スーパーで知り合いに最近の調子聞きあう笑顔の父、昼食もそれなりにおやつを持ち合って日が沈むまで一緒に遊びまわった近所の子どもたち。非常に活動的な場面は多くなかったが、継続的で穏やかな交流が長く続いている心地よい空間が広がっていた。



01 殺風景な風景



山田町は2011年に起きた東日本大震災で地震、津波による甚大な被害を受けた。それからもうすぐ13年の月日が経とうとしている現在では住宅や店も建設されかつての暮らしが戻りつつある。しかし依然としてそれ以外の海の近辺の景観に関しては以前よりも人が寄り付くことがなくなり、手付かずの荒野が生活の中に広がっている状態が続いている。加えて以前よりも高さのある防波堤を全体に建設したことも景色の無機質さを増している。山と海に囲まれた自然豊かな地形であるのにも関わらず被害範囲に生息していた動植物が消え去ってしまったことで周囲の自然環境との差との差も虚しさに拍車をかけている。

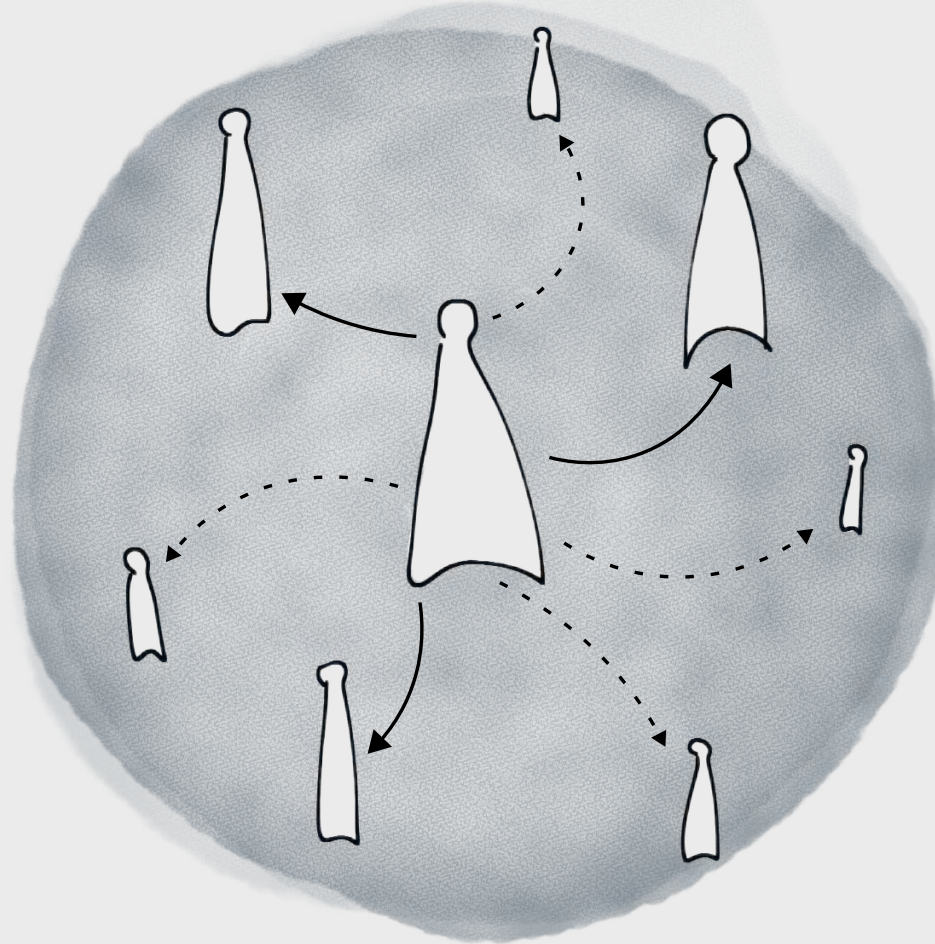
02 少子高齢化

主な死因

1. 悪性新生物（がん）
2. 心疾患
3. 脳血管疾患

日本全体の少子高齢化の流れに漏れず山田町全体の人口のうち約31%が65歳以上の高齢者である。その中でも主な死因の上位3つが疾患やがんなどの生活習慣病を原因とする疾患が縮めている。しかし人口と世帯数の関係性については1世帯あたりの人員の減少はありつつも世帯数は全体的に増加傾向を示している。以上のことから家族単位で長期的に山田町で暮らす人の割合が多いものの、生活習慣を要因として亡くなられている方が多いことがわかる。

03 交流の減少



交流の減少は私がこの課題を考える上で最も課題となっているところである。幼い頃と現在を比べて明らかに山田町の人々と関わる機会が減少しているのだ。昼下がりに散歩がてら周辺の散策をしていても人の気配が無く、誰も見かけることなく帰宅することも珍しくなかった。定期的なイベントや祭りを開催していても少子高齢化は地方のどの地域にとっても避けて通れない問題ではあるが東日本大震災によって長年暮らしていたその地を離れていく者も現れ始めたため、その勢いが加速してしまったように考える。